

病害虫発生・防除情報メールサービス

大阪府環境農林水産部農政室

特に注意！（6月）①

果樹類全般：果樹カメムシ類



チャバネアオカメムシ

特徴

- ◆ チャバネアオカメムシ、ツヤアオカメムシ、クサギカメムシなどが加害する。

防除のポイント

- ◆ 園全体を目合い4mmのネットで覆い、侵入を防止する。
- ◆ 発生を認めたら、アディオン乳剤(かんきつ、もも、かきなど)、スタークル(アルバリン)顆粒水溶剤(かんきつ、もも、かき、ぶどう、なしなど)等を散布する。

令和6年5月16日発出の病害虫発生予察注意報第1号「果樹カメムシ類」についてもご参照ください。

[https://www.jppn.ne.jp/osaka/R6th/chuuihou/2405_chuuihou01\(kajukamemushirui\)_soshin.pdf](https://www.jppn.ne.jp/osaka/R6th/chuuihou/2405_chuuihou01(kajukamemushirui)_soshin.pdf)

野菜類、花き類：オオタバコガ



幼虫

特徴

- ◆ 果実や茎などに食入する。食害痕のまわりに虫糞が確認されることが多い。

防除のポイント

- ◆ 果実の食入孔の中にいるため薬剤がかかりにくく、さらに老齢幼虫には薬剤の効果が落ちるため、捕殺等も含めて早めに対応を行う。
- ◆ 発生を認めたら、プレバソンフロアブル5(なす、トマト、ミニトマトなど)、ディアナSC(なす、トマト、ミニトマトなど)、プレオフロアブル(なす、トマト、ミニトマト、未成熟とうもろこし、花き類・観葉植物など)等を散布する。

令和6年5月24日発出の病害虫発生予察注意報第2号「オオタバコガ」についてもご参照ください。

[https://www.jppn.ne.jp/osaka/R6th/chuuihou/2405_chuuihou02\(ootabakoga\)_soshin.pdf](https://www.jppn.ne.jp/osaka/R6th/chuuihou/2405_chuuihou02(ootabakoga)_soshin.pdf)

卵

6月～8月は農薬危害防止運動月間です。農薬は適正に使用し、事故・被害を防止しましょう！

次回の情報は6月下旬にお知らせします。

◎「防除指針」 <https://www.jppn.ne.jp/osaka/shishin/shishin.html>

農薬を使用する際には、必ず農薬のラベルを確認してください。

病害虫発生・防除情報メールサービス

大阪府環境農林水産部農政室

特に注意！（6月）②

ぶどう：チャノキイロアザミウマ



被害果*

特徴

- ◆ 巨峰、シャインマスカット等の大粒系品種で被害が大きくなりやすい。

防除のポイント

- ◆ ディアナWDG、テッパン液剤、モスピラン顆粒水溶剤等を散布する。
- ◆ 薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布する。

もも：せん孔細菌病



葉の病斑

特徴

- ◆ 春になると越冬した病原菌が増殖し春型枝病斑(前年枝の表面が黒褐色で、陥没したり、裂けたり、かさぶた状になる)を生じる。
- ◆ 病原細菌は、雨水に混じって分散し、気孔や傷口から感染する。

防除のポイント

- ◆ 開花後、枝に形成された病斑を見つけた場合は、早急に健全部を含めて大きめに取り除き、園外で適切に処分する。
- ◆ 発生を認めたら、バリダシン液剤5、スターナ水和剤等を散布する。
- ◆ 風当たりの強いほ場では防風ネットを設置する。

6月～8月は農薬危害防止運動月間です。農薬は適正に使用し、事故・被害を防止しましょう！

次回の情報は6月下旬にお知らせします。

◎「防除指針」 <https://www.jppn.ne.jp/osaka/shishin/shishin.html>

農薬を使用する際には、必ず農薬のラベルを確認してください。

病害虫発生・防除情報メールサービス

大阪府環境農林水産部農政室

特に注意！（6月）③

なす：アザミウマ類



ミナミキイロアザミウマ成虫※

特徴

- ◆ ミナミキイロアザミウマ、ミカンキイロアザミウマが果実や葉を加害する。なお、ミカンキイロアザミウマの果実被害は、「水なす」で目立つ。

防除のポイント

- ◆ 苗からの持ち込みによる発生に注意する。
- ◆ 育苗期後半～定植当日に**モベントフロアブル**、**アベイル粒剤**等を施用する。
- ◆ 発生が見られたら、**アフーム乳剤**、**ファインセーブフロアブル**、**ベストガード水溶剤**(ミナミキイロアザミウマ)等を散布する。
- ◆ 薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。
- ◆ 雑草はアザミウマ類の生息場所となるため、ほ場内および周辺の除草を徹底する。

ねぎ：さび病



葉の病斑

特徴

- ◆ 葉面にオレンジ色のやや隆起した小斑点が多数できる。
- ◆ 多発すると被害葉が枯死する。
- ◆ 気温が22℃ぐらいで雨の多いときに発生が多い。
- ◆ 肥料切れした畑で発生が多い。

防除のポイント

- ◆ 菌は被害植物上で越冬するので、被害株を集めて、ほ場外へ持ち出し処分する。
- ◆ 発生前に、**アミスター20フロアブル**、**ジマンダイセン水和剤**等を予防的に散布する。

6月～8月は農薬危害防止運動月間です。農薬は適正に使用し、事故・被害を防止しましょう！

次の情報は6月下旬にお知らせします。

◎「防除指針」 <https://www.jppn.ne.jp/osaka/shishin/shishin.html>

農薬を使用する際には、必ず農薬のラベルを確認してください。

病害虫の発生予報(6月)

A 水稲

程度 品目	少ない	やや少ない	平年並	やや多い	多い
水稲			いもち病		
			縞葉枯病 (ヒメトビウンカ)		
発生に注意:ジャンボタニシ(スクミリンゴガイ)					

B 果樹

程度 品目	少ない	やや少ない	平年並	やや多い	多い
ぶどう		灰色かび病			
			べと病		
もも			チャノキイロアザミウマ		
			せん孔細菌病		
バラ科果樹			シンクイムシ類		
発生に注意:クビアカツヤカミキリ					
みかん			黒点病		
			ミカンハダニ		
			カイガラムシ類		
いちじく			アザミウマ類		
果樹類全般					果樹 カメムシ類

C 野菜

程度 品目	少ない	やや少ない	平年並	やや多い	多い
なす		すすかび病			
		灰色かび病			
			うどんこ病		
				アザミウマ類	
ねぎ	発生に注意:さび病、ネギハモグリバエ、ネギアザミウマ(えそ条斑病)				

D 野菜類・花き類

程度 品目	少ない	やや少ない	平年並	やや多い	多い
野菜類・ 花き類	発生に注意:サツマイモ基腐病				
			シロイチモジヨトウ		
			ハスモンヨトウ		
			コナガ		
					オオタバコガ
			アブラムシ類		

水稻

いもち病



葉いもち

特徴

- ◆ 低温多湿で日照不足の時に発生しやすく、降雨、窒素過多、過繁茂などの場合に助長される。

防除のポイント

- ◆ 発生が予想される場合、ビームプリンス粒剤やサンスパイク箱粒剤、グイグットフェルテラゼクサロンL粒剤等の箱施用剤を田植え時に処理する。
- ◆ 常発ほ場で箱施用剤を使用できない場合は、発生前にオリゼメート粒剤、コラトップ粒剤5、ゴウケツ粒剤、サンブラス粒剤等を散布する。
- ◆ 発生を認めたらブラシンプロアブル等を散布する。

縞葉枯病(ヒメトビウンカ)



発生株



ヒメトビウンカ【成虫】

特徴

- ◆ 縞葉枯病は、ヒメトビウンカにより媒介される。
- ◆ リ病株では、新葉が垂れ下がって枯死する(ゆうれい症状)。

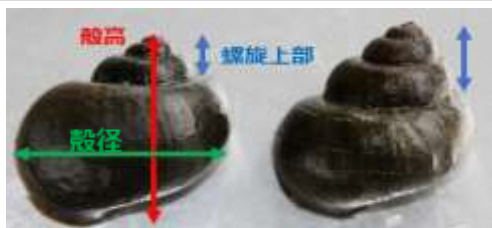
防除のポイント

- ◆ ヒメトビウンカが飛来しないように、周辺のイネ科雑草を除草する。
- ◆ 箱施用剤(フェルテラゼクサロン箱粒剤、リディア箱粒剤、ブーンアレズ箱粒剤)等により、ヒメトビウンカの防除を徹底する。

ジャンボタニシ(スクミリンゴガイ)



ジャンボタニシ
(スクミリンゴガイ)



ジャンボタニシ

マルタニシ



ヒメタニシ

注)当該項目「ジャンボタニシ(スクミリンゴガイ)」の写真は、農林水産省リーフレット「ジャンボタニシによる水稻の被害を防ぐために」より引用。

特徴

- ◆ 成員の殻高は2～7cm程度。
- ◆ 他のタニシ類に比較して、螺旋上部の長さが短く、殻径と殻高がほぼ同じである(上部写真参考)。
- ◆ 主に田植え直後(約20日後まで)の苗が食害され、欠株になる。

防除のポイント

- ◆ ピンク色の卵塊を発見した場合は、水中に掻き落とす。
 - ◆ 水深4cm以下では自由に移動できないので、田植え後の浅水管理が有効。
 - ◆ ほ場が凸凹の場合、深いところの稲が食害されるため、代かきをきちんと行い、ほ場を平らにする。
 - ◆ 用水路からの侵入を防ぐため、取水口や排水口に金網(編目5mm以下)を設置する。
 - ◆ 田植え直後にスクミノン、スクミンバイト3、ジャンボたにしくん等を散布する。
- 注)スクミノン、ジャンボたにしくんを使用後は7日間湛水状態にし、かけ流しや落水はしない。



卵塊

農林水産省・安全局植物防疫課令和5年「スクミリンゴガイ防除対策マニュアル(移植栽培)」はこちら

https://www.maff.go.jp/j/syouan/syokubo/gaicyu/siryou2/sukumi/PDF/sukumi_manual.pdf

ぶどう

灰色かび病



花がらでの症状

特徴

- ◆ 多湿条件で発生が多くなる。
- ◆ 胞子が雨や風によって飛散し、傷口等から感染する。

防除のポイント

- ◆ 適切に換気を行い、湿度を下げるようにする。
- ◆ 第1回ジベレリン処理から結実始めの間にビニルでマルチングをする。
- ◆ 花がらが発生源となることが多いので、開花後に花がらを取り除く。
- ◆ 開花直前または落花直後にゲッター水和剤、スイッチ顆粒水和剤、オンリーワンフロアブル等を散布する。

べと病



葉裏の症状

特徴

- ◆ 梅雨時期など、雨が長くともん延しやすい。

防除のポイント

- ◆ 露地の多発ほ場では梅雨の晴れ間の予防が重要である。
- ◆ 発生を認めたらオロンディスウルトラSC、ベトファイター顆粒水和剤、ライメイフロアブル等を散布する。
- ◆ 農薬を散布する際に、薬害や果実の汚れを避けるため、傘・袋かけ後は棚上散布を行う。

※注意！

一部の農薬は、果粉溶脱を生じるおそれがあるので、幼果期から果粒肥大期の散布を避けて袋かけ以降に使用し、無袋栽培(傘掛けを含む)には使用しない、等の注意事項が掲載されていますので、よく確認してください。

もも

シンクイムシ類



被害果

特徴

- ◆ ももの果実に食入するシンクイムシ類は、ナシヒメシンクイ、モモシンクイガ、モモノゴマダラノメイガがある。

防除のポイント

- ◆ 被害枝は除去し、ほ場外に持ち出し処分する。
- ◆ 産卵期から幼虫加害期(5月上旬～7月下旬)にノーモルト乳剤、アディオン乳剤、サムコルフロアブル10、ディアナWDG等を散布する。

バラ科果樹(もも、すもも、うめ等のサクラ属)

クビアカツヤカミキリ



フラス



幼虫

株元に溜まったフラス

特徴

- ◆ 成虫は体長2～4cm。前胸部は明赤色で、全体は光沢ある黒色。成虫は6～8月頃に出現。
- ◆ 幼虫は樹木内部を食い荒らし、枯死させる。3月下旬から中華麺～うどん状のフラス(木くず等の混合物)を出す。
- ◆ フラスが出ている穴の周辺に幼虫がいる可能性が高い。
- ◆ 若齢幼虫はうどんよりも細い(中華麺状)フラスを出すことがあり、この時期の防除が効果的。

防除のポイント

- ◆ フラスを見つけたら、千枚通しや針金等を穴に入れ、中のフラスをかき出してからロビンフッド、ベニカカミキリムシエアゾールを注入するか、幼虫を突き刺して殺虫する。
- ◆ 発生地域では、成虫対象の登録農薬を散布する。
- ◆ ネットを設置した場合は、ネット内での交尾・産卵を防ぐため、定期的にネット内を確認し、成虫を見つけしだいハンマーなどで捕殺する。



成虫

「クビアカツヤカミキリの生態と防除対策(R6.3改訂版)」についてもご参照ください。

https://www.pref.osaka.lg.jp/attach/318/00000000/kubiaka_osaka.pdf

みかん

黒点病



被害果

特徴

- ◆ 梅雨時期など雨が続くと発生が増加する。

防除のポイント

- ◆ 発生が見込まれる時期にジマンダイセン(ペンコゼブ)水和剤、エムダイファー水和剤等を散布する。降雨が多い場合には、散布回数を増やす。
- ◆ ジマンダイセン(ペンコゼブ)水和剤、エムダイファー水和剤を使用する場合は、皮膚のかぶれに注意する。

※注意！

かんきつ(みかんを除く)では、上記2剤とも使用時期が「収穫90日前まで」なので使用時に注意する。

みかん

ミカンハダニ



被害葉

特徴

- ◆ 梅雨明け後に発生が多くなる。

防除のポイント

- ◆ 6月中～下旬に、ハーベストオイル、トモノールS等のマシン油剤を散布する。
- ◆ 発生を認めたら、ダニコングフロアブル、スターマイトプラスフロアブル等を散布する。
- ◆ 薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布する。
- ◆ 薬剤を散布する場合は、葉裏にも薬液がかかるように散布する。

カイガラムシ類



ナシマルカイガラムシの被害

特徴

- ◆ ナシマルカイガラムシ(サンホーゼカイガラムシ)等が加害する。

防除のポイント

- ◆ 幼虫発生期にエルサン乳剤、モスピラン顆粒水溶剤、トランスフォームフロアブル等を散布する。

幼虫発生期

ナシマルカイガラムシ:5月下旬～6月中旬、8月上旬～中旬

ヤネカイガラムシ:5月下旬～6月下旬、8月中旬～9月上旬

いちじく

アザミウマ類



被害果

特徴

- ◆ 果実の横径が2.5～3.0cmの頃から2週間程度の間に入侵入する。
- ◆ 果実内に侵入し食害する。食害された果実は内部が変色する。

防除のポイント

- ◆ 成虫発生期(5月下～6月中旬)にスピノエース顆粒水和剤、グレイシア乳剤等を散布する。
- ◆ ほ場の周囲を0.8mm目合いの赤色ネットで覆い、成虫の侵入を抑える。
- ◆ 乱反射型光拡散シートをマルチとして設置し、成虫の侵入を抑える。

野菜

なす

すすかび病



葉の病斑

特徴

- ◆ 高温多湿になる施設栽培で発生が多い。

防除のポイント

- ◆ 適度に換気を行い、湿度を下げる。
- ◆ 発生が見込まれる時期にベルコート水和剤、ダコニール1000等を、発生を認めたらスコア顆粒水和剤、パレード20フロアブル等を散布する。

灰色かび病



被害果

特徴

- ◆ 咲き終わった花弁や幼果に感染しやすく、20℃程度の多湿な環境条件や過繁茂で発生が多くなる。

防除のポイント

- ◆ 適度に換気を行い、湿度を下げる。
- ◆ 発生が見込まれる時期に、ベルコート水和剤等を、発生を認めたら、セイビアーフロアブル20、ゲッター水和剤、ファンタジスタ顆粒水和剤等を散布する。
- ◆ 開花後の花弁を取り除く。
- ◆ 同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。

うどんこ病



葉表の病斑



葉裏の病斑

特徴

- ◆ 窒素過多で気温が25～28℃、湿度が50～80%で日照不足が続くと発生する。

防除のポイント

- ◆ 発生が見込まれる時期にベルコート水和剤、フルピカフロアブル等を、発生を認めたらパンチョTF顆粒水和剤、スコア顆粒水和剤、プロパティフロアブル等を散布する。
- ◆ 薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布する。

野菜

ねぎ

ネギハモグリバエ



葉の食害痕

特徴

- ◆ 葉の内部を幼虫が食い込み、その痕が細長く白い筋になる。
- ◆ 新系統が発見されており、従来に比べて一葉あたりの幼虫数が多く、集中的に葉肉を食害するため、葉が白化したようになる。

防除のポイント

- ◆ 発生を認めたら、ハモグリバエの系統に関わらず、「ハモグリバエ類」、「ネギハモグリバエ」に適用のある農薬を散布する。
- ◆ グレーシア乳剤、アフーム乳剤等により、発生初期の防除を徹底する。



▲新系統について詳しくはこちら

ネギアザミウマ(えそ条斑病)



えそ条斑病の葉の病斑



ネギアザミウマ

特徴

- ◆ ネギアザミウマは葉を吸汁し、加害部は白く色が抜ける。
- ◆ えそ条斑病は、ネギアザミウマが媒介するウイルス病である。はじめ、葉身に紡錘型のえそ条斑を呈し、進行すると病斑が癒合拡大し、葉が萎凋・枯死することがある。

防除のポイント

- ◆ えそ条斑病に対する有効な薬剤はないので、媒介昆虫であるネギアザミウマの防除を徹底するとともに、感染株を見つけたらほ場外に持ち出し適切に処分する。
- ◆ えそ条斑病の病原ウイルス(IYSV)は一部の雑草にも感染するので、ほ場内や周囲の除草を徹底する。
- ◆ ネギアザミウマの発生を認めたら、プレオフロアブル、アグリメック、リーフガード顆粒水和剤等を散布する。なお、薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布する。

野菜類・花き類

サツマイモ基腐病



被害株の葉の変色

特徴

- ◆ かび（糸状菌）の一種が原因で、かんしょ（さつまいも）で発生する。
- ◆ 葉が黄変・萎凋したり、茎の基部が暗褐色～黒色に変色する。
- ◆ 進行すると茎葉の枯死、いもの腐敗が発生する。

防除のポイント

- ◆ 消毒済みの苗を購入する、もしくは登録のある農薬（ベンレート水和剤等）で消毒後に植え付ける。
- ◆ 排水不良により発生しやすいので、ほ場の排水対策を徹底する。
- ◆ ほ場を定期的に見回り、発生株の早期発見に努める。
- ◆ 発生株は早めに除去し、ほ場外に持ち出して適切に処分する。



▲技術資料
詳しくはこちら

シロイチモジヨトウ



幼虫

特徴

- ◆ ねぎでの発生が多いが、しゅんぎく、まめ類、なす科野菜、あぶらな科野菜、花き類等多くの作物を加害する。

防除のポイント

- ◆ 発生を認めたら、グレーシア乳剤（ねぎなど）、バネビアOD（ねぎなど）、ロムダンフロアブル（ねぎ、花き類・観葉植物、きく）等を散布する。

ハスモンヨトウ



幼虫

特徴

- ◆ なす科野菜、さといも等多くの作物を加害する。

防除のポイント

- ◆ 発生を認めたら、アディオソル乳剤（さといも、さといも（葉柄）、オクラ、豆類（未成熟）など）、ディアナSC（かぼちゃ、なす、トマト、ミニトマトなど）、コテツフロアブル（さといも（葉柄）、さといも、オクラ、花き類など）、プレバソソフロアブル5（さといも、なす、ピーマンなど）等を散布する。

ヨトウムシ類については「ヨトウムシ類の見分け方」をご参照ください。

https://www.jppn.ne.jp/osaka/color/yoto/yoto_l.pdf

野菜類・花き類

作物毎に登録内容が異なるのでラベル等で確認すること。

コナガ



成虫 ※



幼虫 ※

特徴

- ◆ 主にあぶらな科野菜を加害し、葉を薄皮だけ残して食害する。
- ◆ 一部地域でジアミド系殺虫剤に対する抵抗性が生じている。

防除のポイント

- ◆ 同じ系統の薬剤を連用しないよう注意する。
- ◆ 発生を認めたら、デルフィン顆粒水和剤(野菜類)、アクセルフロアブル(非結球あぶらな科葉菜類など)、ディアナSC(非結球あぶらな科葉菜類など)等を散布する。

アブラムシ類



ワタアブラムシ※

特徴

- ◆ 作物を吸汁し、生育を阻害する。また排泄物にカビが発生し、すす病の原因となる。さらに、各種のウイルスを媒介し、作物によっては致命的な被害をもたらす。

防除のポイント

- ◆ 発生を認めたら、モスピラン顆粒水溶剤(なす、トマト、ミニトマト、未成熟とうもろこし、しゅんぎくなど)、アドマイヤー顆粒水和剤(なす、トマト、ミニトマトなど)、コルト顆粒水和剤(なす、トマト、ミニトマト、花き類など)、ウララDF(なす、トマト、ミニトマト、ピーマンなど)等を散布する。
- ◆ 薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布する。